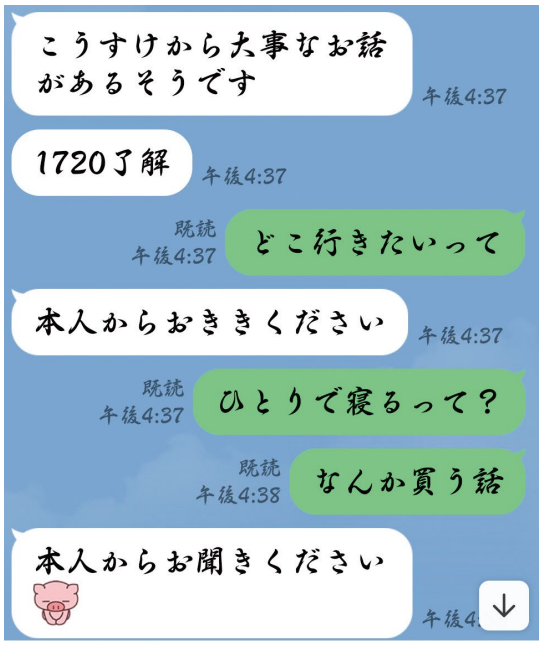
広報委員長 坂本 文彦 Fumihiko Sakamoto

「こうすけから大事なお話があるそうです」とのLINEの一文から始まった。ある年の2月21日、国税局での電話相談で1日格闘した日曜日のことである。



その年のJR北海道のダイヤ改正で、北海道の18もの駅が廃止された。それは3月13日のこと。そこからさかのぼることおよそ3週間前である。廃止になる前に駅名標をカメラに収めたい。「だから廃止になる前に18駅の内お目にかかったことのない宗谷本線12駅を巡る旅にお父さんと行ってきたら」と、妻が言ったか言わないか。そう、大事なお話とは父と子の二人旅の提案であった。

無謀である。この繁忙期の真っ只中に。ただ、そうはいっても、この希望をかなえてあげたい。変わり者の息子の望みを。チャンスは2月26日出発か3月5日出発。大雪によるJRの運行状況を確認しつつ、仕事頑張った。

そう、われわれは2月26日17時30分発網走行きのオホーツク3号の車中にあった。翌日からの戦いに備えて、旭川で途中下車し、ホテルに宿泊。「焼鳥専門ぎんねこ」で旭川名物新子焼に舌鼓を打った。就寝。

翌日早朝、コンビニで朝食を買い（車内販売も自動販売機もない）6時3分発稚内行き2両編成に乗り込んだ。普通列車6時間の旅である。2両のうち1両は終点稚内まで行く。その1両には同業者（……鉄）らしき人が4人掛けの席にそれぞれで陣取っていた。われわれはスタートダッシュに失敗。入り口近くの席に仕方なく座った。

さて、撮影するぞと息巻いたが、おや、窓がしばれて霜が。そうしているうちに「南比布」失敗（もともと通過なので撮影は難しかった）。「北比布」は霜取りがうまくいかなくて失敗。「東六線」は駅名標の位置と合わず、あー失敗。落ち込む。まだ9駅あると励まし、「北剣淵」、「下士別」、「北星」、「南美深」、「紋穂内（もんぽない）」、「豊清水」は気温が上がったため、霜も消えて無事クリア。

ここからは小一時間、廃止駅はないのでしばしの休憩。音威子府到着は9時8分と、すでに乗車時間は3時間越えた。久々の各駅停車にしては撮影、撮影の連続であっという間。後半も約3時間だが、「安牛」、「南幌延」、「徳満」と適度に緊張感あり、幌延で21分の停車あり、ということで、あっという間に稚内へ到着。6時間5分という行程に経験者である私も若干の不安があったが、何とか何事もなく（何事

はあったのでこの話は続くのだが）北の地へ。

さてさて、到着後はどうするか。稚内自体は何度も何度も来ているので、今さら観光ではない。当初の案は

①このまま13時1分、53分の滞在で折り返す

②飯食べて、風呂に入って17時46分サロベツ4号で折り返す

③泊まる

のいずれかということであったが、さすがに8歳の男子の体調を考えると、実は泊まるという選択を旭川宿泊の段階で決定。その場で稚内の温泉ホテルを予約。これが正解。昼食後、そのホテルへ行くと、13時だというのに部屋に通してくれた。そこで私自身がベッドでひと眠りしてしまった。まあ、特に稚内での観光も考えていなかったし、息子自身の目的もほぼ達成されているので、しばしまったり。その後、お土産のために散策。私は昼ビール、息子はソフトクリームと満喫。

あやっ、息子の目的はほぼ達成である。ほぼ。3駅残している。さて、いかにすべきか。と思っていたら、「帰りに撮りたい」と言い出した。お父さんしばし思案。方法があった。朝一のサロベツ2号稚内発6時36分に乗り、名寄で途中下車。1時間半の待ちで、普通列車に乗り換えれば、その3駅の駅名標が撮れるとわかり、テンション上がる。その夜は、ホテルの最上階の露天風呂に入り、おいしい海産物食べて、就寝。

3日目5時半に起床。ひと風呂浴びて、今日も朝食はコンビニ。特急に乗り込み、彼にとっては退屈の2時間47分。名寄到着。1時間36分の待合を売店にあった高校生が作ったさけるチーズでテンションを維持。10時59分に待望の各駅停車に乗り込み、「東六線」、「北比布」、「南比布」と無事ミッションをクリア。旭川にて、12分あった乗り換え時間に弁当を買うはずだったが、到着遅延のため弁当買えず、そのまま13時発のライラック24号に乗り換え、またまた彼にとって退屈な1時間25分を経て、札幌への無事のご帰還となりました。

そう、うちのこうちゃん8歳（当時）の趣味は廃線探訪など。その1ページを書き加えることができたお父さんも大満足の旅でした。

※廃止12駅は「南比布」、「北比布」、「東六線」、「北剣淵」、「下士別」、「北星」、「南美深」、「紋穂内」、「豊清水」、「安牛」、「南幌延」、「徳満」です。

廃止前比布駅

廃止後比布駅